

【技術の名称】 JFEスチールの薄肉ウェブ梁座屈補剛工法	性能証明番号：GBRC 性能証明 第23-19号 性能証明発効日：2023年10月24日 【取得者】 JFEスチール株式会社
--	--

【技術の概要】

本技術は、鋼製のH形断面梁において、梁端近傍の上下フランジ間にウェブに直交し、鉛直なスチフナを設置することで、ウェブの局部座屈による耐力低下を抑制し、塑性変形性能を向上させる工法。

【技術開発の趣旨】

近年、建築物の大規模化や梁のロングスパン化が進んでいる傾向にあり、梁端接合部の継手効率の向上や鋼材重量の削減のため、梁せいが大きく板厚が薄い梁（以下、薄肉ウェブ梁）が採用されるケースが多くある。薄肉ウェブ梁の場合、ウェブ幅厚比が大きくなることから、地震時に梁に作用する曲げモーメント及びせん断力により、梁端近傍のウェブに局部座屈が発生し、早期に耐力が低下する危険性があり、十分な塑性変形が期待できない場合がある。本技術はこのような背景を踏まえ、鋼材重量の削減と塑性変形性能の確保の両立を意図して開発したものである。

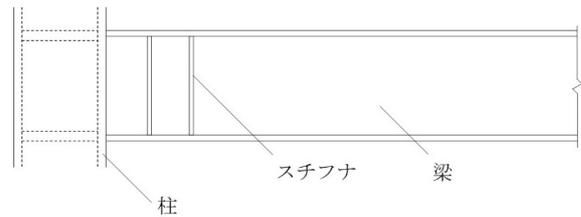
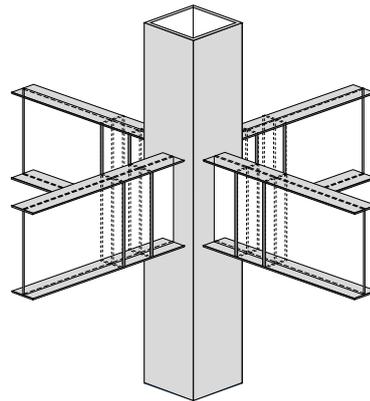


図-1 工法の概要

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「JFEスチールの薄肉ウェブ梁座屈補剛工法 設計・施工指針」に従って設計・施工された鉄骨梁は、以下の性能を有する。

- (1) 幅厚比種別を「FA」とする場合には、昭和55年建設省告示第1791号第2第四号による幅厚比の規定を満足するとみなすことができる。
- (2) 幅厚比種別に応じて、昭和55年建設省告示第1792号第3第二号による梁の種別「FA」、「FB」、または「FC」相当の塑性変形能力を有する部材として扱える。

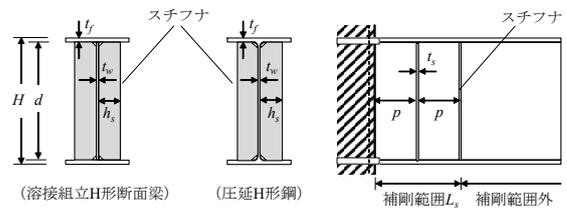


図-2 補剛範囲

【本技術の問合せ先】

JFEスチール株式会社 担当者：安永 隼平
〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号

E-mail：j-yasunaga@jfe-steel.co.jp
TEL：03-3597-4129 FAX：03-3597-3825